

山鹿市立小・中学校規模適正化基本計画  
第2次計画書  
(変更の概要)

令和3年3月

山鹿市教育委員会

はじめに・・・

全国的な少子化が続くなか、山鹿市においても、中山間部を中心に児童生徒数は著しい減少傾向を示しており、これからもその傾向は続くものと思われます。その結果、複式学級の発生や1学年1学級といった小規模校、20人に満たない小規模学級が増加している現状です。

このような学校・学級の小規模化は、児童生徒の学校における人間関係や教職員の配置の問題、教育環境の面において、様々な影響を及ぼすことが考えられます。

山鹿市教育委員会では、このような課題に対応するため、平成19年3月に、市民等の代表20名からなる「山鹿市立小・中学校規模適正化等協議会」を設置して、小・中学校の適正規模及び適正配置等について検討をいただき、平成20年3月に「山鹿市立小・中学校規模適正化について」の提言をいただきました。

協議会では、次代を担う子どもたちに望ましい教育環境を提供するためには、適正な学校規模が必要であることや従来の地域コミュニティを尊重して、適正な配置を行なうこと。また適正化を進めるにあたっては、遠距離対策や学校跡地利用などについて、保護者や地域の方々の理解を得る必要があることなどの提言がなされました。

本市教育委員会は、学校規模の適正化に向けて、平成21年1月に「山鹿市立小・中学校規模適正化基本計画」を策定し、平成26年度までを第1次計画期間、平成27年度以降を第2次計画期間として学校再編に取り組んできたところです。

しかしながら、事業を進めていく一方で、児童生徒数の急激な減少などの要因により、学校を取り巻く環境も大きく変化し、さらには、学校施設の老朽化などによる統合校施設整備期間の長期化も重なったことで進捗の遅れが生じました。このような学校教育の現状・課題を考慮し、子どもたちの最適な教育環境を早期に作るためには、現在の開校目標や統合の枠組みを改めることが必要不可欠であると考え、今回、実施計画の一部変更を行うものです。

## 1 本市の学校規模の現状

山鹿市の学校数は、令和2年度現在、小学校10校、中学校5校の計15校となっています。

児童生徒数については、平成23年度には、4,431人が在学していましたが、令和2年度には3,796人となり、10年間で635人、14.4%減少しています。令和8年度には推計で3,392人に減少する見込みとなっており、今後も児童生徒の減少傾向は続いていくと予想されます。

### ■児童生徒数の推移見込み

(単位:人)

|        | 平成23年度 | 平成26年度 | 令和2年度  | 令和8年度(推計) |
|--------|--------|--------|--------|-----------|
| 小学校児童数 | 2,865人 | 2,700人 | 2,502人 | 2,114人    |
| 中学校生徒数 | 1,566人 | 1,436人 | 1,294人 | 1,278人    |
| 合計     | 4,431人 | 4,136人 | 3,796人 | 3,392人    |

## 2 計画の期間

平成27年度から平成31年度までの5年間を基本としていましたが、期間を3年間延長し、平成27年度から令和4年度までとして計画を進めます。

## 3 第2次計画の進捗状況

### ① 米野岳中校区4小学校(米野岳小、千田小、山内小、米田小)の再編

平成29年4月にめのだけ小学校として開校しました。

### ② 鶴城中と山鹿中の再編

平成31年4月に山鹿中学校として開校しました。

### ③ 鹿本地区3小学校(来民小、稲田小、中富小)の再編

平成30年4月の開校を目指していましたが、当初改修予定としていた校舎が施設耐力度調査により建て替えが必要となり、整備期間を延長し、開校目標を令和2年4月に改め、鹿本小学校として開校しました。

### ④ 八幡小・平小城小・三岳小の再編

八幡小・平小城小・三岳小の再編計画については、平成28年から各小学校PTAや地域への説明会を実施し、再編計画について周知・理解を図り、平成29年10月に開催した第1回統合準備委員会において、「八幡小学校の位置に統合校を設置する」「開校目標年度は平成31年度から当面延期する」ということが確認されました。

この結果を受け、八幡小学校施設の構造耐力度調査を実施し、平成30年12月に開催した第2回統合準備委員会において、「管理棟及び教室棟は既存建物の改修、体育館は建て替えの方向性とする」ということが確認されました。また、八幡小学校敷地内の土砂災害特別警戒区域の解消に向けた整備が、学校再編事業を進める中で、最優先課題であり、対策工事を行った上で、区域の解消が見込まれる段階になってから具体的な再編事業に取り組むこととし、その時点で開校目標年度を定めることが併せて確認されました。

その後、工事予定箇所用地の筆界未定等により協議・手続きが難航しましたが、令和2年12月に対策工事が完了し、現在、区域指定解除のための手続きを行っています。

しかし、平小城小・三岳小では児童数の減少が加速化し、複式学級数が増加している状況にあることから開校目標までの期間、厳しい学校運営が見込まれます。

複式学級の解消は、学校規模適正化基本計画の重要な基本方針であり、子どもたちが多様な考え方に触れ、社会性や協調性を育み、教育機会の均等を確保する上でも早期の複式学級の解消を図るためには、現在の開校目標や統合の枠組みを改めることが必要不可欠であると考えました。

よって、2次計画当初において、八幡小・平小城小・三岳小の3校での再編を計画していましたが、事業計画の遅れの間平小城小、三岳小児童数の減少が加速化し、一方の八幡小は横ばいであることから、平小城小・三岳小の複式学級早期解消を図るため、受け入れ可能な山鹿小との再編を検討し、八幡小は現行のまま存続することとします。

#### 4 実施計画の見直し

##### ○小学校再編の見直し

##### 平小城小・三岳小と山鹿小の再編

##### ■児童数の推移【令和2年5月1日現在】

(単位：人)

| 学校名  | H22年度 | H23年度 | H24年度 |   | H30年度 | R1年度 | R2年度 | R3年度 | R4年度 | R5年度 |
|------|-------|-------|-------|---|-------|------|------|------|------|------|
| 平小城小 | 63    | 60    | 44    | ～ | 46    | 46   | 40   | 32   | 25   | 29   |
| 三岳小  | 115   | 114   | 107   |   | 80    | 72   | 63   | 66   | 64   | 60   |
| 山鹿小  | 642   | 628   | 624   |   | 756   | 757  | 741  | 722  | 725  | 716  |
| 合計   | 820   | 802   | 775   |   | 882   | 875  | 844  | 820  | 814  | 805  |

- ・統合の枠組みを、平小城小・三岳小・山鹿小へと改めます。
- ・統合は、令和5年4月の開校を目指します。
- ・統合校の位置は、山鹿小学校を予定します。
- ・統合の前には、児童やPTAの各種交流事業等を支援します。
- ・各学校で進められている特色ある教育を活かし、新しい学校づくりに努めます。
- ・通学距離が概ね4Kmを超える地域については、スクールバス等の運行を計画します。また、通学路の現状等を点検し、安全性の確保に努めます。